施策の評価シート（令和５年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画		津市都市マスタープラン、津市教育振興ビジョン後期基本計画			
担当部局			政策財務部、商工観光部、農林水産部、都市計画部、建設部、教育委員会			
施策の内容（番号）			090	～	093	

2　「施策の内容」の総合評価と今後の方向性

番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価 選択区分	今後の方向性 選択区分	担当課
090	交通利便性が高い津インターチェンジ周辺地区については、各種法令等による土地利用規制があることから、無秩序な開発の抑制に努めつつ、地域の実情に応じた土地利用が可能となるよう、規制緩和と抜本的な法令改正を国・県へ要望します。	B	①	都市政策課
091	都市的サービス、自然や歴史・文化を実感することができる機能及び本市の求心力を高めることができる機能を有した都市的な拠点を配置するほか、住民生活や地域コミュニティの中心となる地域的な拠点等を配置することにより、持続可能な都市を形成します。	A	①	商業振興労政課/津駅前北部土地区画整理事務所/建設整備課/図書館
092	都心活動の南北軸となる国道23号を中心とする地域を都心活動軸として位置付け、都心活動軸においては、都市機能の誘導に努めます。	B	①	都市政策課
093	交流拠点である津インターチェンジ周辺及び津なぎさまち周辺から、都市拠点である津新町駅、大門・丸之内周辺地区へ誘導する都市計画道路津港跡部線を、新都心軸として位置付け、2つの交流拠点と本市中心部である都市拠点との交流機能の充実に努めます。	A	①	都市政策課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3　「施策」の総合評価

	区分	選択区分	総評（施策の進捗状況や効果等を端的に記載）
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	A　80点以上 B　60点以上80点未満 C　40点以上60点未満 D　20点以上40点未満 E　20点未満	A	津インターチェンジ周辺において新たな土地利用が可能となるよう法令改正及び規制緩和について引き続き国・県へ要望したほか、津駅前北部地区第一種市街地再開発事業の事業化促進や、令和6年度の完成に向けた大谷踏切の拡幅工事等を実施するとともに、官民連携組織であるエリアプラットフォーム「大門・丸之内未来のまちづくり」において、道路空間活用実験を行うなどによって、都市機能の整備に向けた取組が進みました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	B	B	B	A	A				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928090
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画		津市都市マスタープラン（平成30年度～令和9年度）			
担当部局			政策財務部、農林水産部、都市計画部			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			090	交通利便性が高い津インターチェンジ周辺地区については、各種法令等による土地利用規制があることから、無秩序な開発の抑制に努めつつ、地域の実情に応じた土地利用が可能となるよう、規制緩和と抜本的な法令改正を国・県へ要望します。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容		事業の目的	事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
090-1	津インターチェンジ周辺における土地利用の検討	都市政策課	津インターチェンジ周辺の土地利用について法令改正及び規制緩和を国や県に要望	効	津インターチェンジ周辺の交流機能の充実に資する新たな土地利用が図られる	◆ 県政要望の実施	○	県政要望においては、今後も本市との連携のもと、適切な対応を行っていくとの回答がされていることから、「○」とした。今後も新たな土地利用の実現に向けて検討していく。
				誰	市内外の人々	◇ 要望実施状況	○	
				何	圏域内外との交流及び新たな土地利用による活力の向上	0（千円）	現状維持	
090-2				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
090-3				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
090-4				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
090-5				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

090-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
090-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
090-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
090-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
090-10			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	B	B				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928091
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画（令和5年度～令和9年度）			
担当部局			商工観光部、都市計画部、建設部、教育委員会			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			091	都市的サービス、自然や歴史・文化を実感することができる機能及び本市の求心力を高めることができる機能を有した都市的な拠点を配置するほか、住民生活や地域コミュニティの中心となる地域的な拠点等を配置することにより、持続可能な都市を形成します。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
091-1	駐車場管理運営事業	商業振興労政課	アスト、フェニックス通り、お城東、ポルタひさい、久居駅東口駐車場の管理・運営	効	市街地の駐車場需要に対応できる	◆ 市営駐車場利用台数の向上	○	本事業において、前年度と比べ、利用台数は減少したものの、収益は上昇した。（令和4年度　687,336台　205,919,030円、令和5年度　680,991台　227,050,850円） 今後も、継続した事業を展開し、市街地の駐車場需要に応えていく。
				誰	市内外の自動車利用者	◇ 駐車場利用回転率1.3（1日平均台数／収容台数）以上	◎	
				何	駐車場利用台数を向上させることによる周辺地域の活性化	166,896（千円）	現状維持	
091-2	津駅前北部土地区画整理事業	津駅前北部土地区画整理事務所	1件の物件移転交渉、換地処分準備の実施	効	下水道などの施設が整った良質な宅地を権利者に引き渡すことができる	◆ 宅地整地工事及び仮換地の引き渡し	◎	計画どおり工事を実施（整備率約99.9%）し、権利者に仮換地を引き渡すことができたため「◎」とした。 令和6年秋頃の換地処分公告を目指し事業を進めていく。
				誰	事業区域内の権利者	◇ 公共施設等整備率	◎	
				何	土地の区画形質を整え宅地の利用の増進を図る	11,750（千円）	現状維持	
091-3	上浜町大谷町第1号線外1路線道路改良事業	建設整備課	大谷踏切の拡幅及び近鉄架道橋拡幅工事	効	狭い踏切道および前後の道路や架道橋の拡幅により、安心・安全な移動空間を確保できる	◆ 令和6年度の完成	○	令和3年度から近鉄と協定を締結し、踏切西側の架道橋工事に着手し引き続き工事を行った。令和6年度の完成を目指し整備を進めていく。
				誰	道路利用者	◇ 事業の進捗率	△	
				何	歩行者と自動車の錯綜による事故リスクや交通渋滞を低減することができる	562,866（千円）	現状維持	
091-4				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

091-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
091-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
091-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
091-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
091-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	C	A	A				
今後の方向性	①	①	②	②	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928092
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画		津市都市マスタープラン（平成30年度～令和9年度）			
担当部局			都市計画部			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			092	都心活動の南北軸となる国道23号を中心とする地域を都心活動軸として位置付け、都心活動軸においては、都市機能の誘導に努めます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容		事業の目的	事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
092-1	市街地再開発事業	都市政策課	津駅前北部地区第一種市街地再開発事業の推進	効	土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の集積・更新が図られる	◆ 主となる地権者への動向把握	○	地権者への動向把握においては、現時点では事業化への機運が高まっていない状況にあるが、今後も都市機能の集積及び活力の向上が図られるよう、事業化促進の取組を続ける。
				誰	市内外の人々	◇ 事業実施に向けた地権者の機運の高まり	△	
				何	居住・来訪したくなる多様で高次な都市機能の集積による活力の向上	89（千円）	現状維持	
092-2				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
092-3				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
092-4				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
092-5				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

092-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
092-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
092-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
092-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
092-10			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	B	B	B	B	B				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928093
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画					
担当部局			都市計画部			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			093	交流拠点である津インターチェンジ周辺及び津なぎさまち周辺から、都市拠点である津新町駅、大門・丸之内周辺地区へ誘導する都市計画道路津港跡部線を、新都心軸として位置付け、2つの交流拠点と本市中心部である都市拠点との交流機能の充実に努めます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
	担当課		何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
093-1	レッ津！夢みなとプラン推進事業	津なぎさまち周辺において、海上アクセス拠点・みなとオアシスとしてふさわしい賑わいと交流を生み出すみなとまちづくりに係る調査・研究等の取組	効	「レッ津！夢みなとプラン」に基づく港湾整備が実現する	◆ 啓発事業1回開催	◎	当初計画していた、啓発事業「海の月間」パネル展示を行い、4,051名の来場者があったため「◎」とした。今後も、魅力の向上及び交流の促進につながる取組を通じ、将来的な港湾整備の実現に向けて取り組む。
			誰	市内外の人々	◇ 来場者数	◎	
	都市政策課		何	津なぎさまちの魅力向上による交流の促進	0（千円）	現状維持	
093-2	都市拠点再生推進事業	エリアプラットフォーム「大門・丸之内未来のまちづくり」への参画及び未来ビジョンの実現に向けた取組への支援	効	官民が連携して策定した未来ビジョンに基づく都市づくりにより交流機能の充実が図られる	◆ 未来ビジョン実現に向けた官民連携によるリーディングプロジェクトの取組の実施	◎	官民連携組織であるエリアプラットフォーム「大門・丸之内未来のまちづくり」において、関係者が協議を重ね、連携して道路空間活用実験が実施されたため、「◎」とした。今後もエリア内の多様な関係者と連携し、未来ビジョンに基づく取組を進める。
			誰	市内外の人々	◇ 地区の将来像の共有及び関係者の取組連携	◎	
	都市政策課		何	大門・丸之内地区の魅力と活力の向上	2,777（千円）	拡充・充実	
093-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
093-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

093-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
093-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
093-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
093-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

.